

I プログラム学習とは

1. プログラム学習の概要

プログラム学習は、生徒の一人一人に行動させることを通じて学習を成立させることを目的とする教育方法の一種である。

このためその学習形態は、プログラム学習の原理に則って周到綿密に準備された訓練プログラムに従い、生徒一人一人がその能力に応じた進度で、自から学習を進めていくもので、個別の訓練指導が基本である。

生徒に与える訓練プログラムには、ブック、シート、テープ、フィルム、シミュレータ、実物などがあり、訓練内容に応じて適宜選択され構成される。

2. プログラム学習の原理

学習は、生徒が合理的に経験し行動することによって成立するという立場に立って、次の5つを原理として体系づけられている。

a. 積極的反応の原理

訓練プログラムの中で与えられた情報・指示に対して生徒が答を書く、作業をするなど積極的に学習行動をとり乍ら学習をすゝめる。聞きっぱなし、読みっぱなしでなく、生徒の積極的な反応（学習行動）は必ず表面に出させるよう学習の場が用意される。

b. 即時確認の原理

反応（学習行動）の結果の正否は、生徒自からに即時的に確認させ、自からにフィードバックさせる。重要な点については、更に指導員による確認フィードバックを図る。

このことによって正しい学習行動が強化され、その定着が図られる。

c. スモールステップの原理

生徒の積極的反応を容易にするために、学習の段階に飛躍のないようにし、易しい事柄から一步一步確実に学習過程をマスターさせつゝ最終目標に到達

させる。

d. 自己ペースの原理

プログラム学習では生徒の学習は各人の能力に応じた速さで各人毎に進められる。

集団における個別指導が可能となり，生徒一人一人について学習の徹底を図ることが出来る。

e. 学習者検証の原理

訓練プログラムは，生徒の立場に立って作られるものである。しかし乍ら往々にして指導員ペースになることが多い。

このために，プログラムを訓練に適用する前に，何人かの生徒を選んで試行を行ない，プログラムの不備な点を修正する。

生徒が出来ないのはプログラムが悪いという前提で，生徒の検証によってプログラムが完成されていく。